

安楽寺だより

令和元年 春夏 No.34号

まさに知るべし、もろもろの余の苦患（わざわい）は或いは免れる者あらんとも
無常の一事は、終に避くる処なきを

源 信

元号も変わり、新しい時代を迎えました。今年気温変動もはげしく、肌寒い春も終わりを近づけると、まもなく暑い夏がやってきます。皆さん体調の変化に気をつけて下さい。

そんな中、皆さん「生物多様性の日」って知っていますか？1993年にナイロビで、生物の多様性の保全を目的とした「生物多様性条約」を各国が結び、この条約が結ばれた日に、「生物多様性の日」として定め、多くの国や地域で生物の多様性を守る活動が行われています。



他のいのちのつながりは、もちろんのこと、環境問題を含め、「種の絶滅」を防ぐ目的を主に活動するといってもいいのかも知れません。

近年、生物の絶滅危惧種される生物は、急激な速さでその数を増しているそうです。トラやゴリラなどの危惧される有名な野生動物たちにかぎらず、まったく知られていない

魚や虫たち、ましてや植物を含めると、絶滅を余儀なくされているものは、2万5千種ほどにのぼるようです。



人間は生物学上「哺乳類霊長目（サル目）ヒト科ヒト亜族ヒト属」の1種類にしかすぎません。たった1種の間人が、数万という多くの種類の生物を絶滅に至らしめて、また原因をつくり上げている現状が地球に起こっています。

人類も努力を重ね、パンダやサイなど絶滅から救い出し、また環境保全に取り組んでいる方も多くいます。

生物は自らが生きぬくために、他の生物を食すという食物連鎖があります。食物連鎖の中で種が絶えることはないそうです。しかし食す以外の目的での乱獲や環境そのものを奪ってしまうとすべてが失われてしまいます。

人類は知恵という武器で、連鎖の頂点にいるのだと錯覚をおぼえます。連鎖に頂点はなく、つながりあって生きていると思わなければならないでしょう。

日本でも古くから昔話など、戒めもまじえて語られてきました。花坂爺さんや鶴の恩返し、浦島太郎に舌切り雀など因果応報を説いたお話、鬼や河童に天狗をまじえた伝説などもあります。



欧米から日本は、鯨やイルカを食することへの批判がありますが。食物連鎖や生態系を崩すものではありませんでした。

宗派で昭和の妙好人ともいわれる童謡詩人の金子みすゞさんが、生まれ育った山口県仙崎では、鯨の漁が盛んなところでした。そこでは、捕れた鯨の供養のために、1頭1頭に戒名（法名）がつけられ、鯨位牌に鯨の過去帳、鯨の墓があります。そして、毎年、鯨回向法要が行われます。過度の捕鯨などは一切せず、いのちに感謝を忘れることはないといわれています。

釋 法英